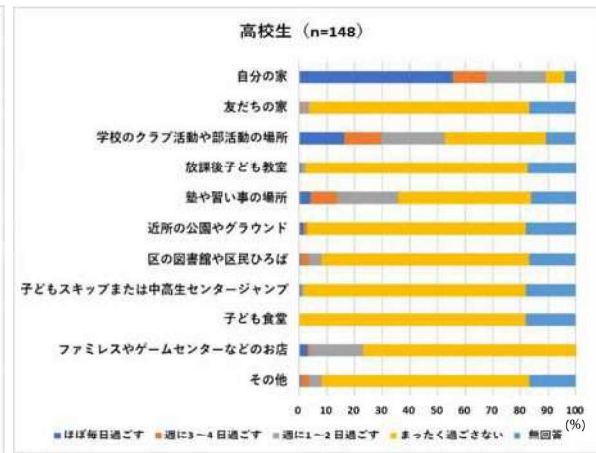
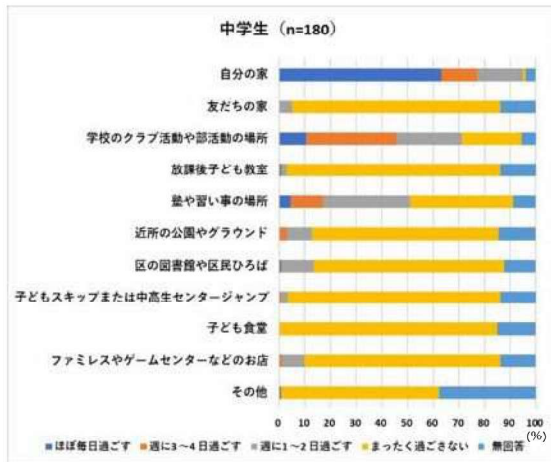
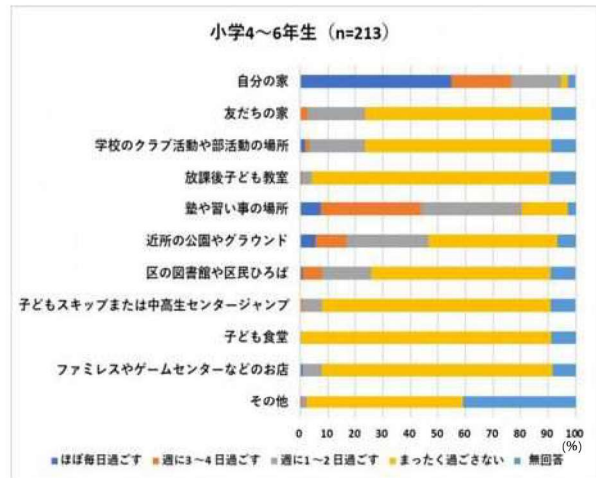


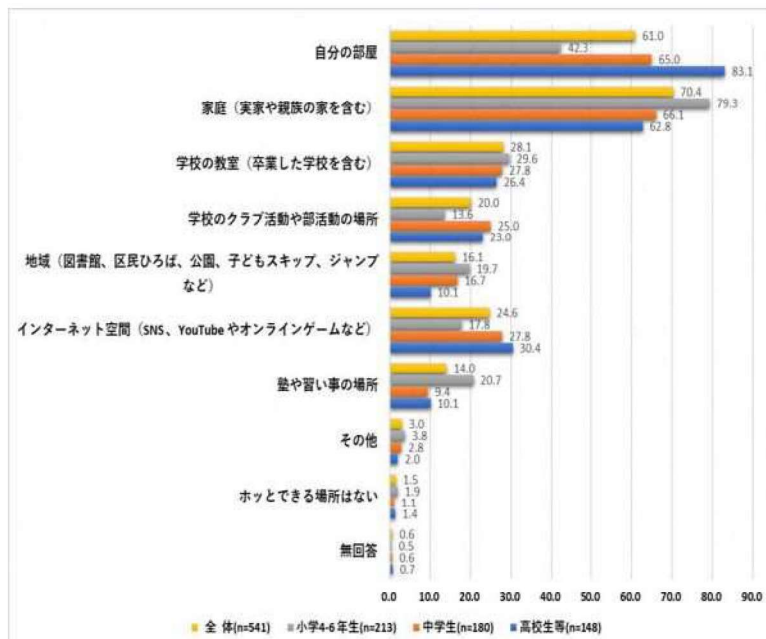
子どもの居場所

■放課後に過ごす場所はどこですか

- いずれの年代の子どもも自分の家で過ごす割合が高くなっています。
- 小学生は、塾や習い事、公園やグラウンドで過ごすことが多くなっています。
- 中高生は、学校のクラブ活動や部活動、塾や習い事をして過ごすことが多くなっています。



■ホッとする場所はどこですか（複数回答）



- いずれの年代の子どもも自分の部屋や家庭、学校の教室が居場所であると回答する割合が高くなっています。

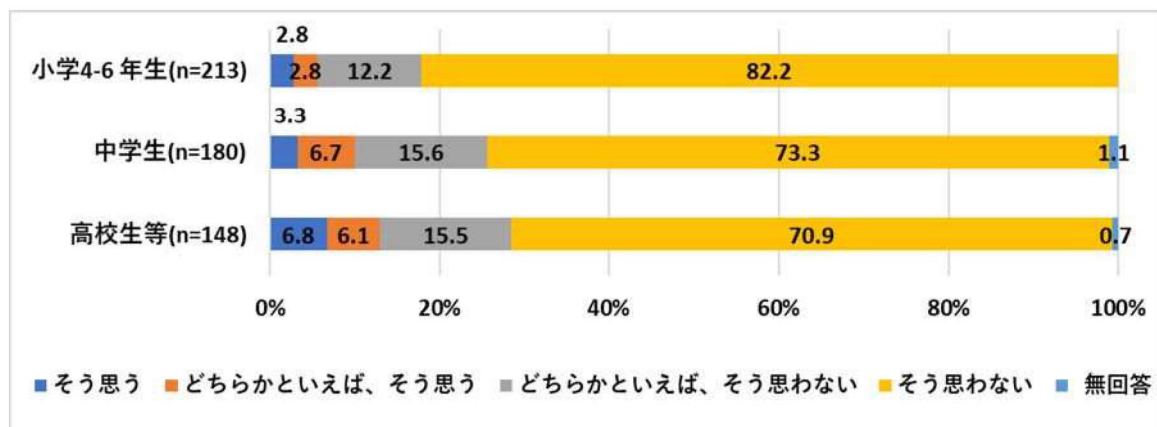
- 小学生は、地域や塾・習い事を居場所とする回答が2割を占めています。

- 中高生は、学校のクラブ活動や部活動の場所、インターネット空間を居場所と回答する割合が高くなっています。

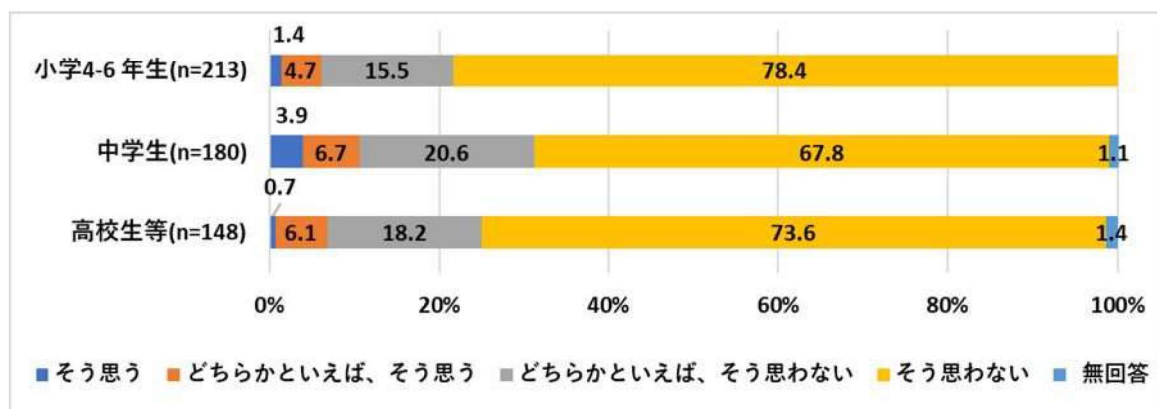
第2章 子ども・若者と家庭を取り巻く状況

子どもの約2割が「自分には話せる人がいない」、「自分はまわりから取り残されている」と感じています。また、2割弱の若者が「自分はひとりぼっち」だと感じています。

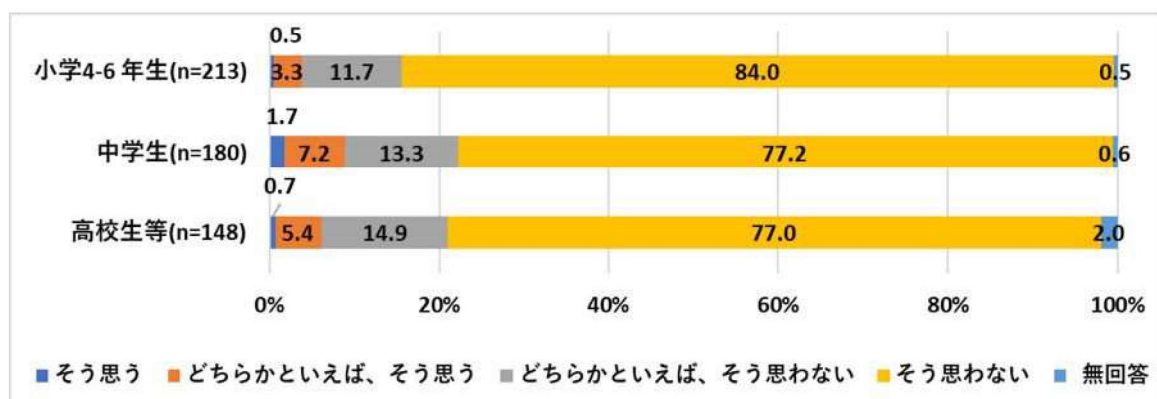
■あなたは、自分には話せる人がいないと思いますか



■あなたは、自分はまわりから取り残されていると思いますか



■あなたは、自分はひとりぼっちだと思いますか

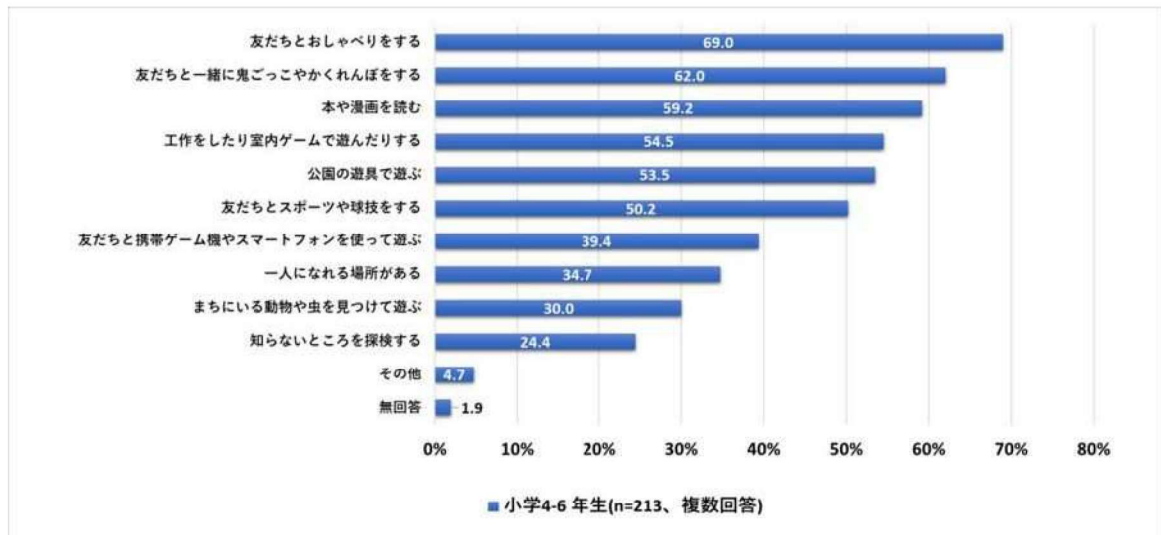


第2章 子ども・若者と家庭を取り巻く状況

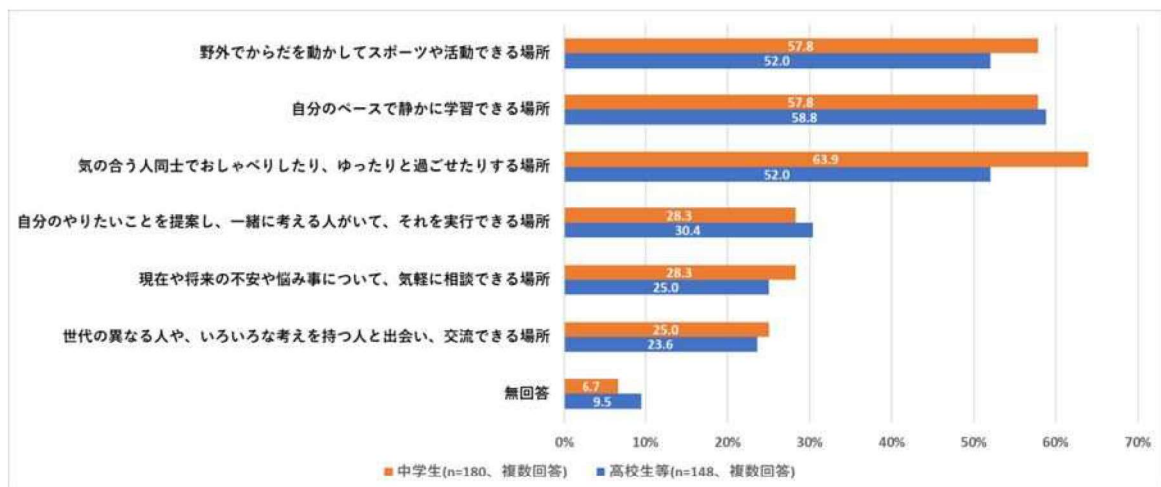
小学生へ地域の中にどんな遊び場所があるといいと思うかを聞いたところ、「友だちとおしゃべりをする場所」が最も多く、全体の約7割となっています。次いで、「友だちと一緒に鬼ごっこやかくれんぼをする場所」、「本や漫画を読む場所」、「工作をしたり室内ゲームで遊んだりする場所」、「公園の遊具で遊ぶ」が続きました。

また、中高生等へ地域の中にどのような場所があるとよいと思うかを聞いたところ、約半数が「気の合う人同士でおしゃべりしたり、ゆったりと過ごせたりする場所」、「自分のペースで静かに学習できる場所」、「野外でからだを動かしてスポーツ活動ができる場所」と回答しました。いずれの選択肢に対しても2割以上の中高生等があるとよいと回答しています。

■あなたは、地域の中にどんな遊びができる場所があるといいと思いますか



■あなたは、地域の中にどのような場所があるとよいと思いますか

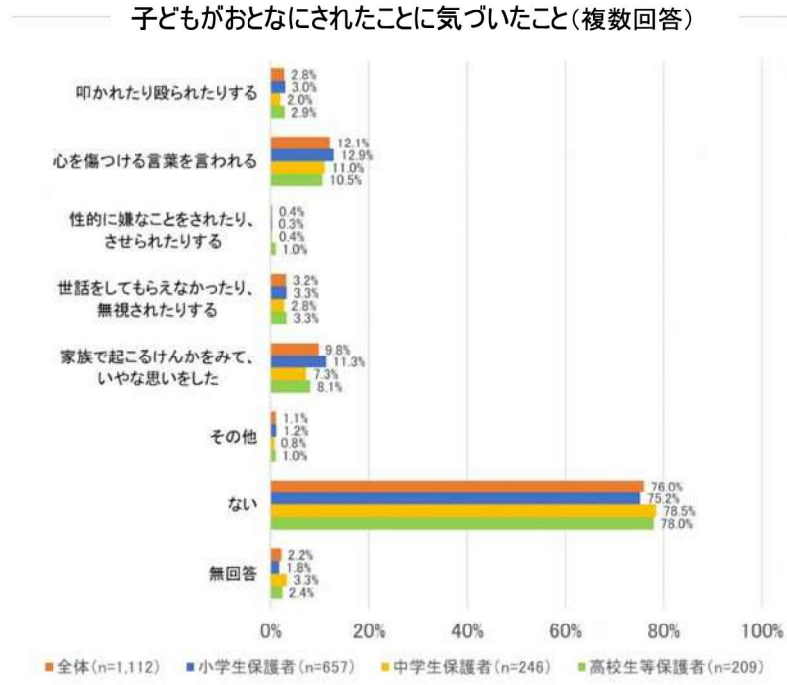


第2章 子ども・若者と家庭を取り巻く状況

子どもの権利侵害の状況

○虐待の経験について

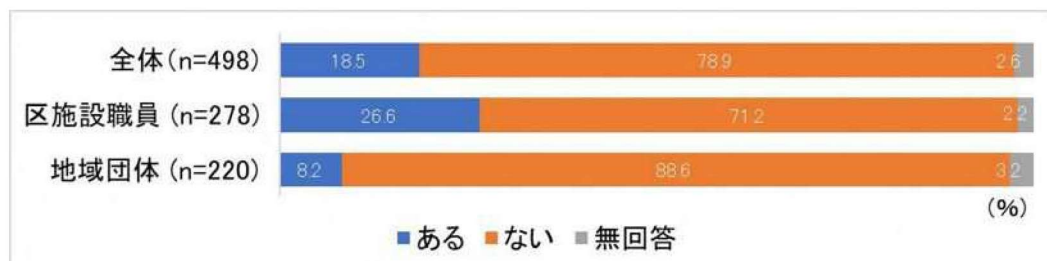
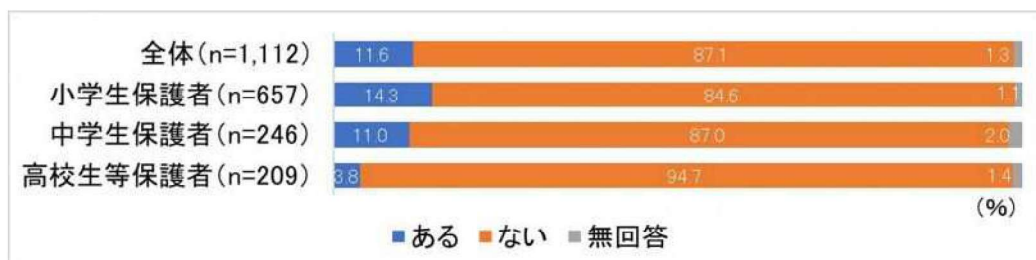
小学 4～6 年生及び
中高生の保護者の約 2
割が、おとなとの関わり
の中で子どもが困難
に直面していることに
気づいたと回答してい
ます。特に「心を傷つ
ける言葉を言われる」、
「家族で起こるけんか
を見て、いやな思いを
した」ことが多くなっ
ています。



○いじめの経験について

保護者及び区施設職員、地域団体の約 1 割から 3 割が自身や身の回りのこどものいじめ
(いじめられる・いじめているの両方を含む) に気づいたことがあると回答しています。

いじめに気づいたことの有無

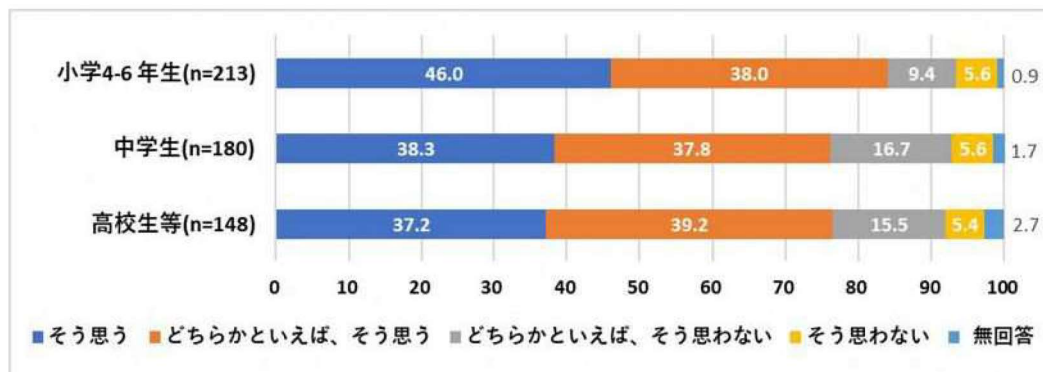


② 子どもの意識・意向

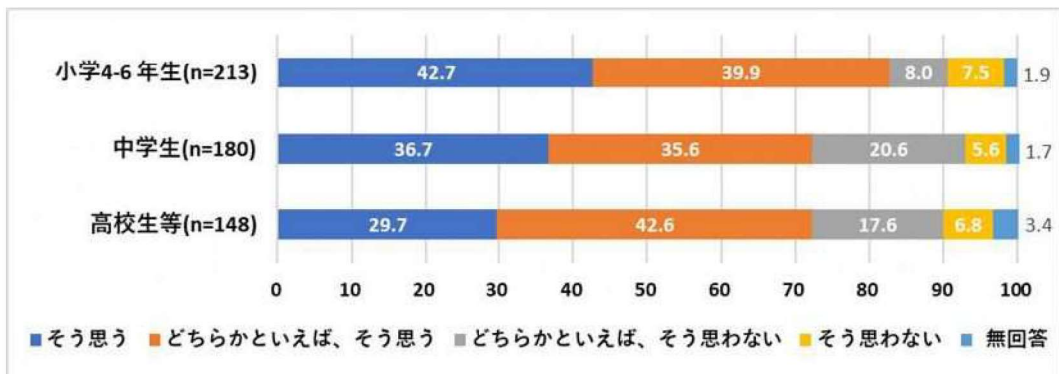
子どもの自己肯定感・自己有用感

自分を好きかという質問では、小学4～6年生は「好き」が、中高生では「どちらかといえば好き」が最も多くなっており、年代が上がるにつれて「好き」が少なくなる傾向があります。「自分の将来は明るいと思う」と回答する子どもが約3～4割である一方、1割程度の子どもの「自分が役に立たないと強く感じている」と回答しています。

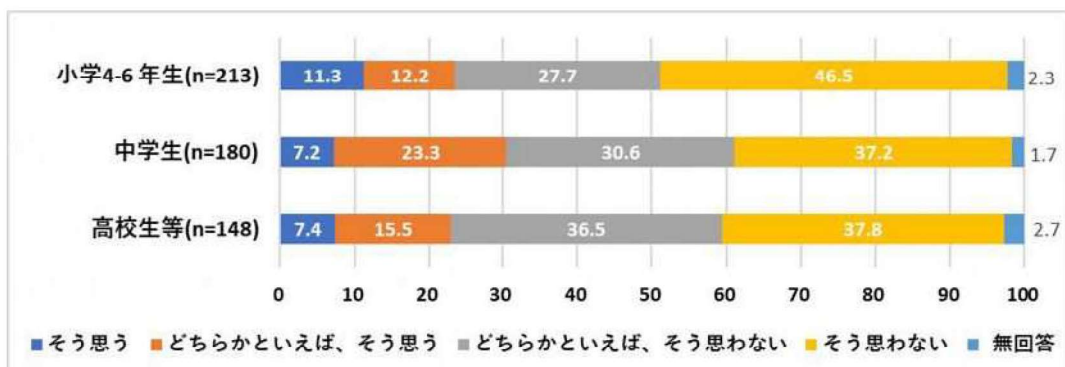
○自分を好きだと思っているか



○自分の将来は明るいと思っているか



○自分が役に立たないと強く感じているか

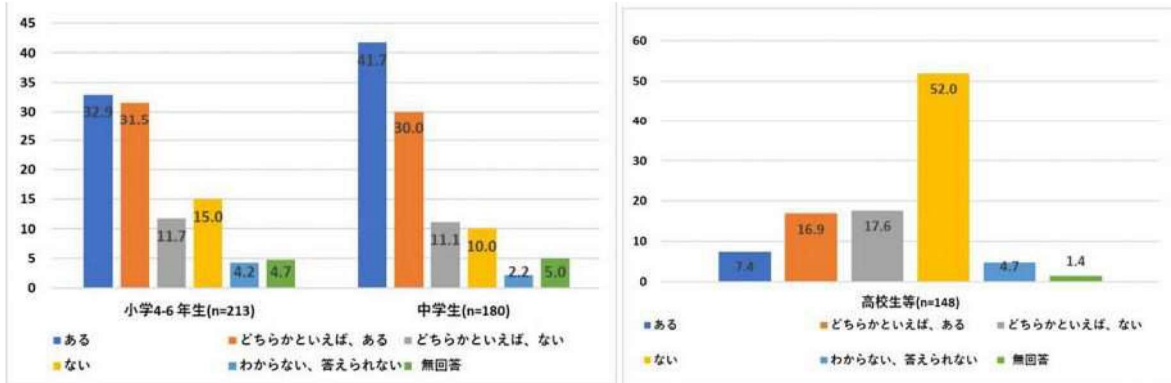


第2章 子ども・若者と家庭を取り巻く状況

悩みや困っていることについて

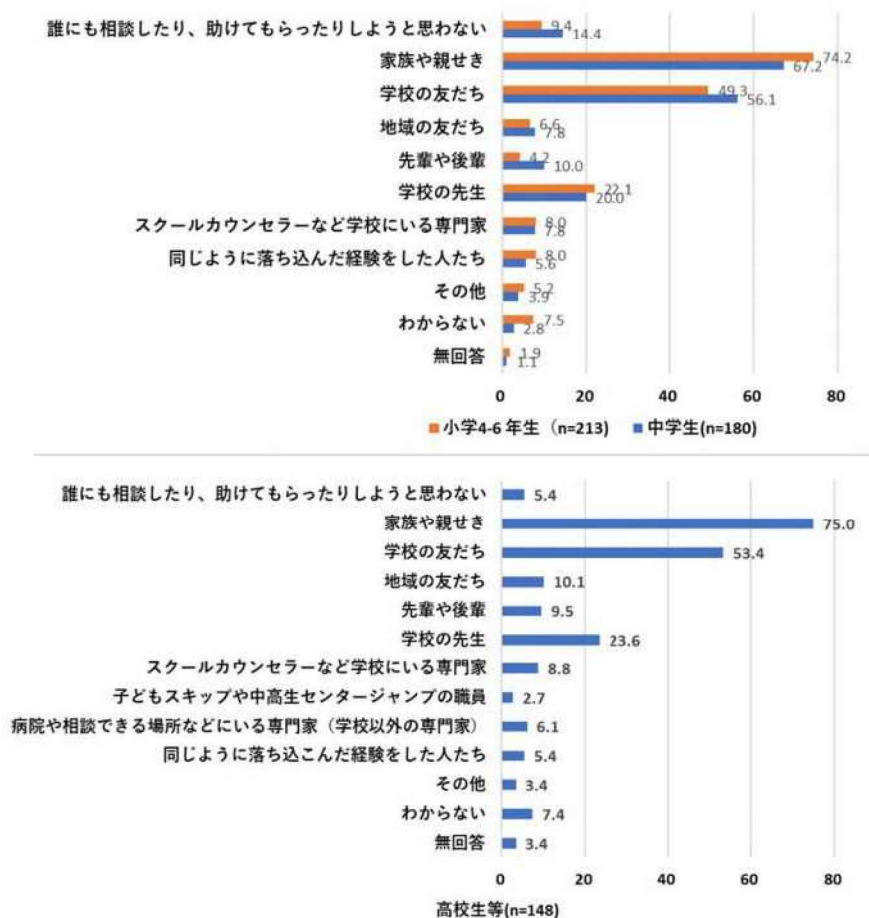
■今までにものごとがうまくいかずに落ち込んだ経験はありますか（小中学生）

■今までに社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなったことがありますか（高校生等）



■ものごとがうまくいかずに落ち込んだときに、どういった人に相談しますか（小中学生）

■社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなったときに、どういった人に相談しますか（高校生等）



○ 小中学生の約 3～4 割がものごとがうまくいかず落ち込んだ経験があると回答しています。

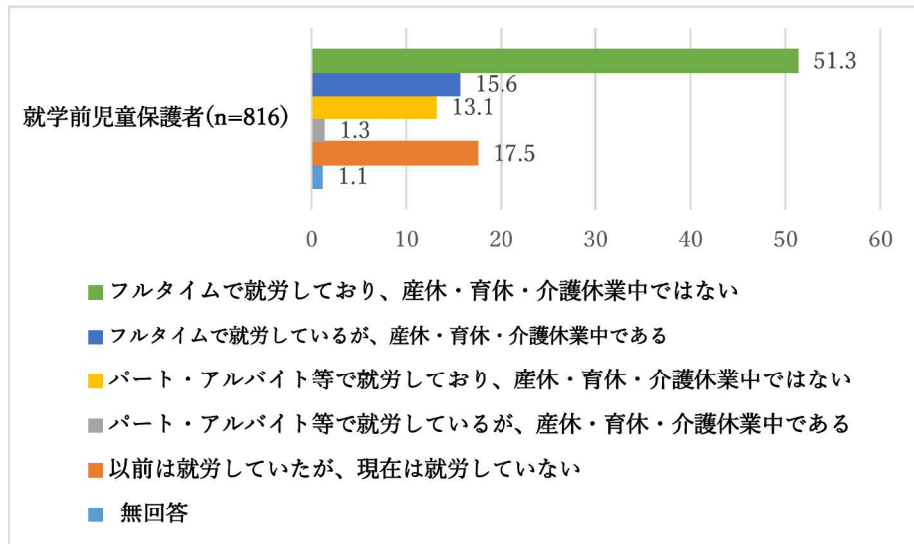
○ 高校生等の約 2 割が社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなった経験があると回答しています。

○ 落ち込んだり、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなった時の相談先は、「家族や親せき」、「学校の友達」「学校の先生」と回答した割合が高くなっています。

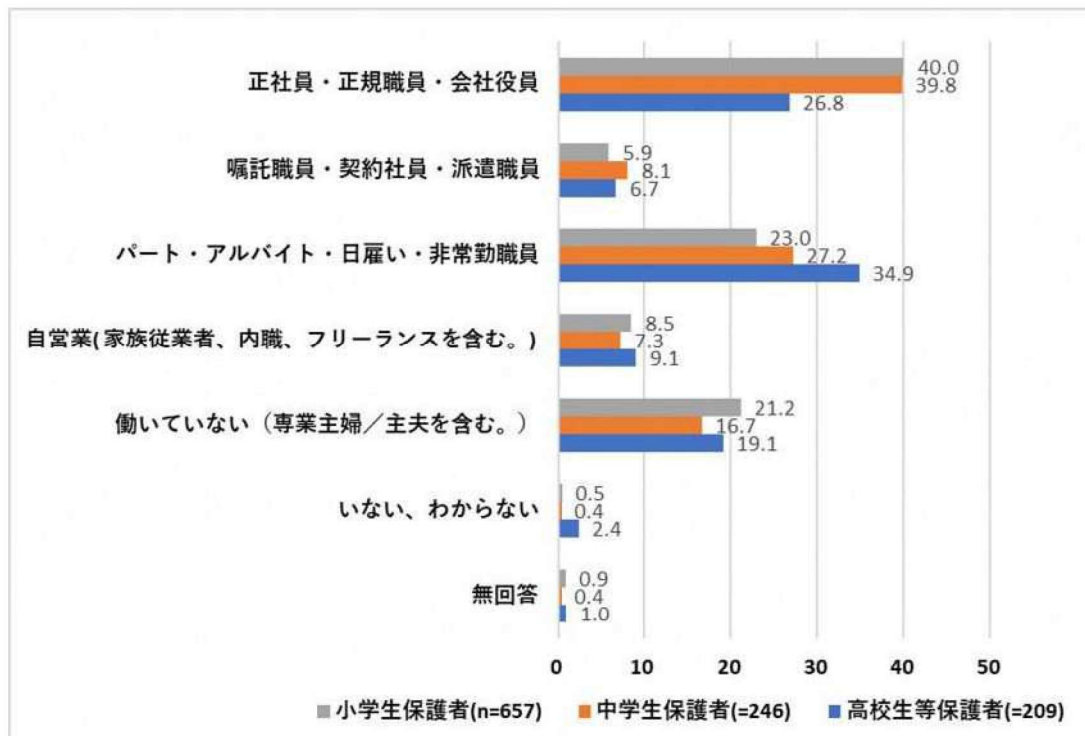
③ 保護者の意識・意向

母親の就労状況

就学前児童保護者の約6割が「フルタイムで就労している」と回答しています。一方で2割弱の就学前児童保護者は、「現在は就労していない」と回答しています。



小中学生保護者の約4割、高校生等保護者の約3割が「正社員・正規職員・会社役員」として就労していると回答しています。また、子どもの年次が進むとともに、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」として就労していると回答する保護者の割合が高くなる傾向が見えます。

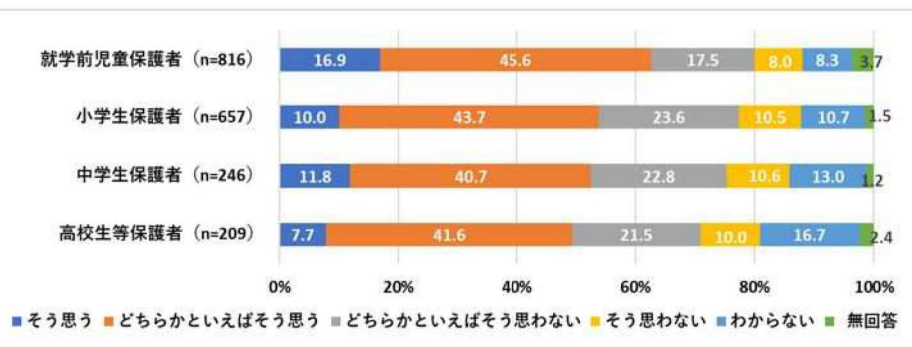


第2章 子ども・若者と家庭を取り巻く状況

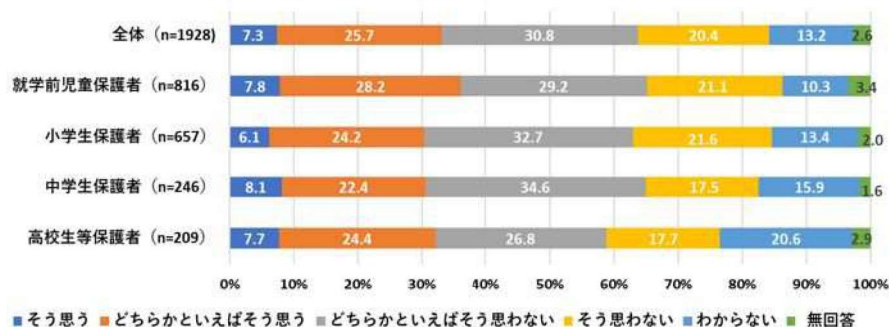
子育て環境への意識・意向

就学前保護者の約6割が、小中学生・高校生等保護者の約5割が「安心して子どもを産む環境づくりができています」と回答している一方で、約1割の保護者が「そう思わない」と回答しています。

■安心して子ども産む環境づくりができていますか

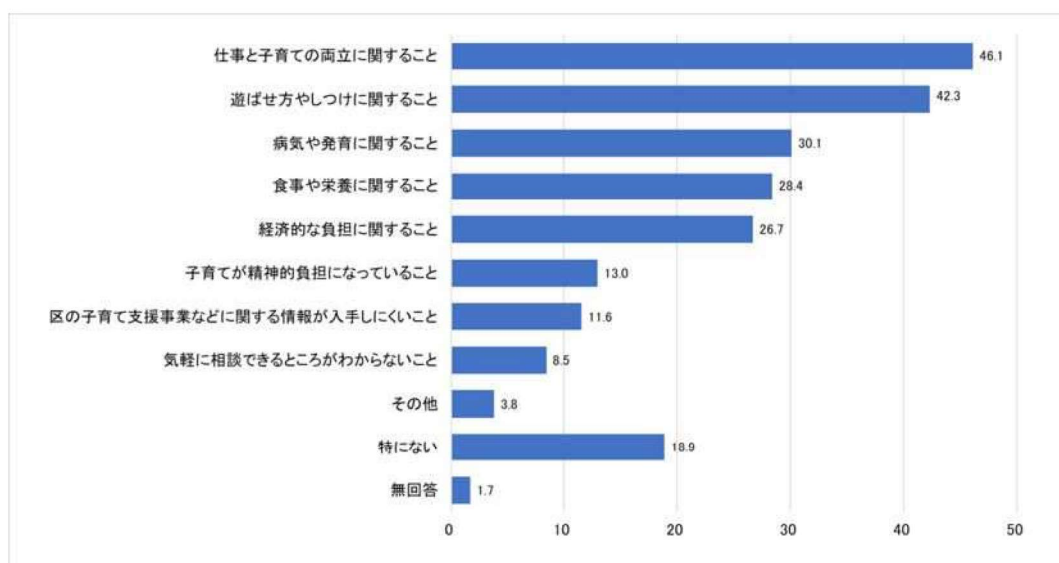


■子育てを視野に入れた住宅対策や道路・施設整備が行われていると思いますか



育児に関して特に不安なことや悩んでいることとしては、「仕事と子育ての両立に関すること」と回答する保護者が最も多く、「遊ばせ方やしつけに関すること」、「病気や発育に関すること」、「食事や栄養に関すること」、「経済的な負担に関すること」が続いています。

■育児に関して、特に不安なことや悩んでいることはありますか（就学前保護者、n=816）



定期的な教育・保育事業の利用の有無（就学前保護者）

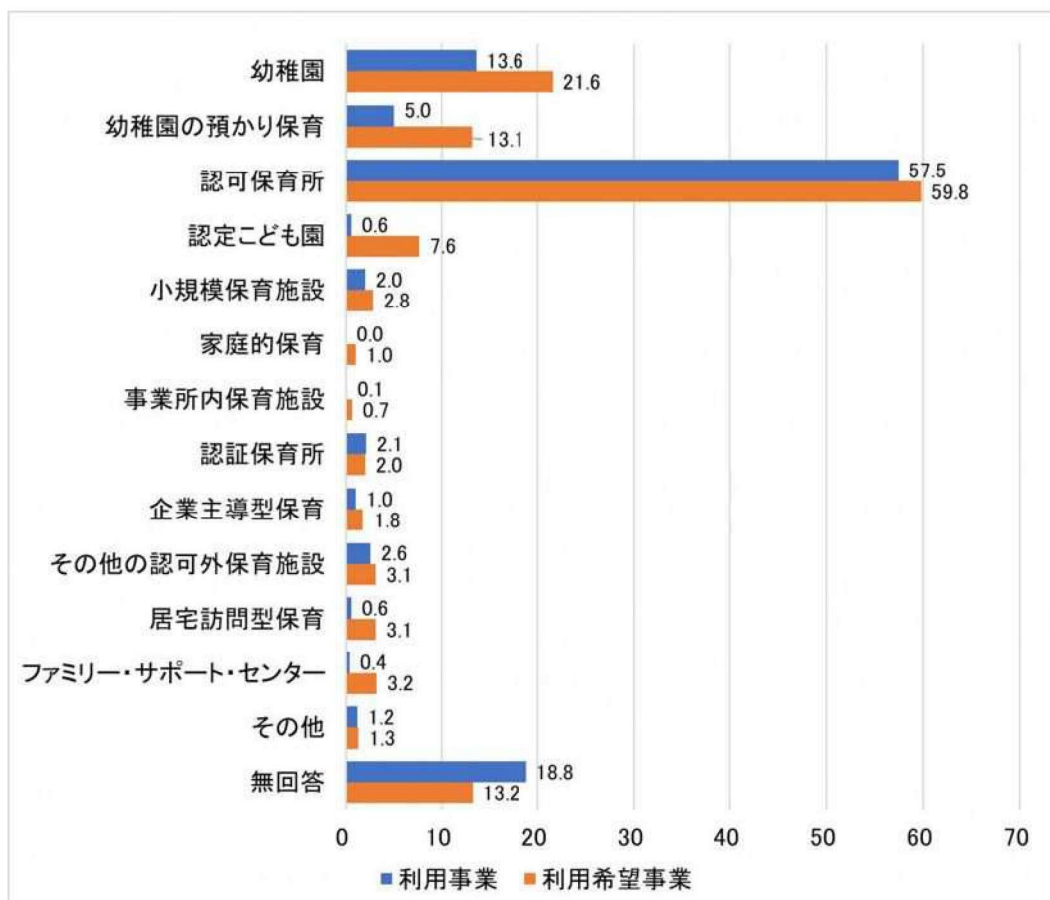
前回調査と同様に就学前保護者の約 8 割が幼稚園や保育園などの定期的な教育・保育事業を「利用している」と回答しています。



平日に利用している定期的な教育・保育事業（就学前保護者）

平日に利用している定期的な教育・保育事業について、「認可保育所」が 57.5%と最も多くなっています。平日に利用を希望する定期的な教育・保育事業は、「認可保育所」への回答が 59.8%を占め、「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」、「認定こども園」と続いています。

(n=816、複数回答)



(%)

第2章 子ども・若者と家庭を取り巻く状況

定期的な教育・保育事業を選ぶ際に重視していること（就学前保護者）

全体的な傾向として、「自宅の近く」「園長・保育士・職員スタッフ等の対応や園の印象がよい」が重視する点とされています。

また、「施設・設備が整っている」、「兄弟姉妹が通っている」「延長保育に対応している」「保育だけではなく、様々な教育プログラムを提供している」も多く選択されています。

回答者数:816

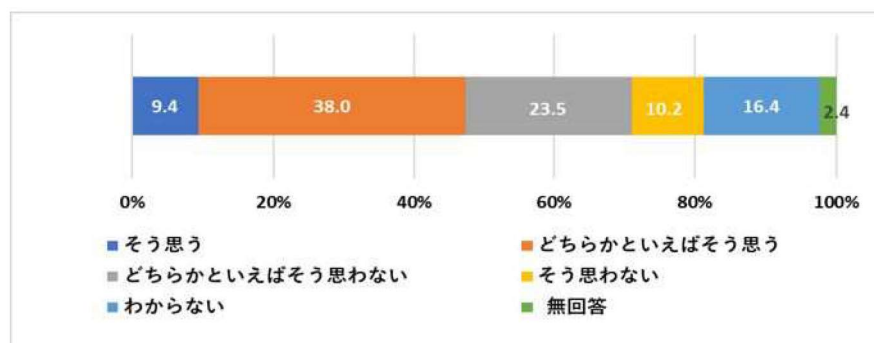
(単位: %)

選択項目	優先順位1	優先順位2	優先順位3	優先順位4	優先順位5
自宅の近く	① 57.6	② 15.3	⑤ 8.0	5.6	4.3
子どもが将来通う小学校のある居住地区内にあること	1.1	4.9	2.8	1.8	2.5
職場の近く	0.6	2.0	1.1	1.0	1.1
駅の近く	0.6	3.9	3.4	2.1	1.3
兄弟姉妹が通っている	③ 5.1	⑤ 8.7	5.1	3.3	3.7
延長保育に対応している	⑤ 2.9	8.1	④ 8.2	⑤ 6.9	8.8
夜間や休日保育に対応している	0.2	0.5	1.0	1.3	1.1
乳児保育を実施している	0.1	2.1	1.1	1.3	1.6
病院や病後児の対応を行っている	0.1	0.9	1.0	1.8	1.5
施設・設備が整っている	2.5	③ 10.3	③ 12.5	② 13.8	⑤ 9.1
送迎サービスを行っている	0.6	0.6	0.6	0.7	1.3
給食を提供している	2.0	④ 10.0	② 14.8	③ 12.0	② 9.6
地域の評判がよい	1.1	4.5	6.5	6.7	7.7
保育料が安い	0.2	1.0	2.7	2.8	3.3
行事が充実している	0.4	1.1	3.2	6.5	③ 9.4
園長・保育士・職員スタッフ等の対応や園の印象がよい	② 18.5	① 19.6	① 16.8	① 15.0	④ 9.1
保育だけでなく、様々な教育プログラムを提供している	④ 4.7	4.4	7.2	④ 7.8	① 12.3
その他	1.1	0.7	0.6	0.7	1.5
無回答	0.5	1.3	3.3	8.6	10.9

“地域の子育て力” 向上のために有効な取組

約5割の保護者が「地域における子育て支援や見守り活動が活発に行われている」と回答しています。

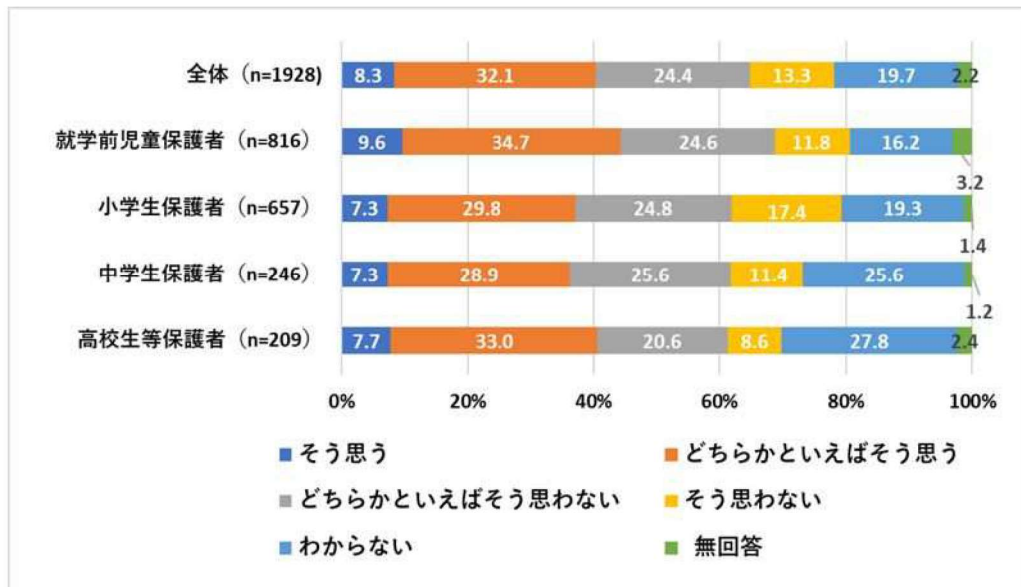
■地域における子育て支援や見守り活動が活発に行われていると思いますか（就学前・小中高校生等保護者、n=1928）



約4割の保護者が「職業生活と家庭生活を両立するための支援が行われている」と回答しています。

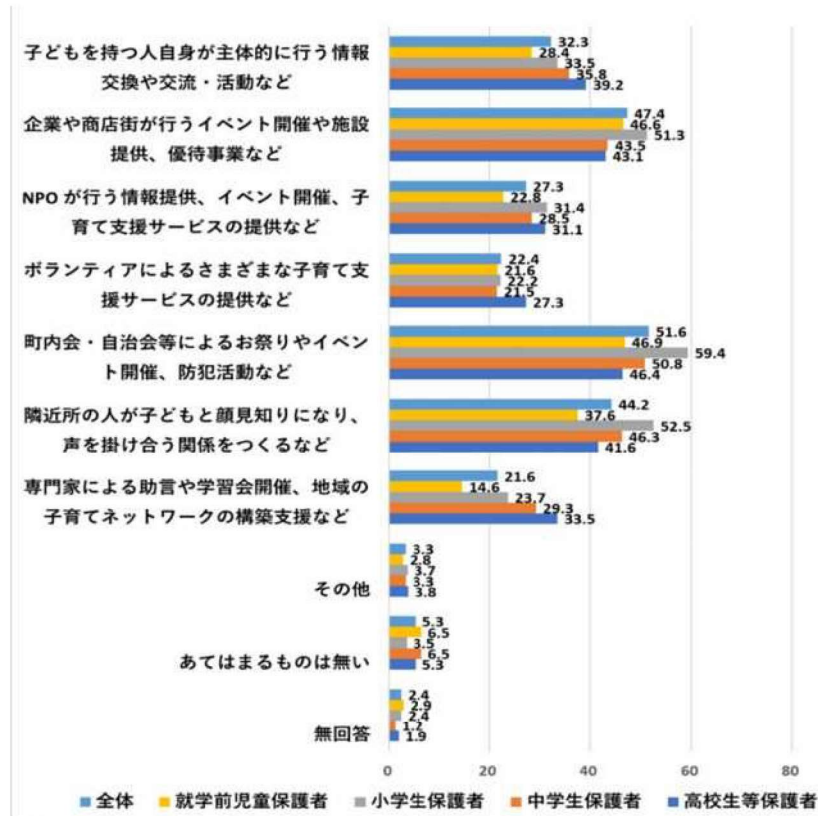
第2章 子ども・若者と家庭を取り巻く状況

■職業生活と家庭生活を両立するための支援が行われていると思いますか



地域の子育て力向上へ向けて有効な取組については、全体的な傾向として、「町内会・自治体等によるお祭りやイベント開催、防犯活動など」「企業や商店街が行うイベント開催や施設提供、優待事業」「隣近所の人が子どもと顔見知りになり、声を掛け合う関係をつくるなど」への回答が多くなっています。

■地域全体で子育てを支援していく“地域の子育て力”を向上させるためには、今後どのような取り組みを進めることが有効だと思いますか



第2章 子ども・若者と家庭を取り巻く状況

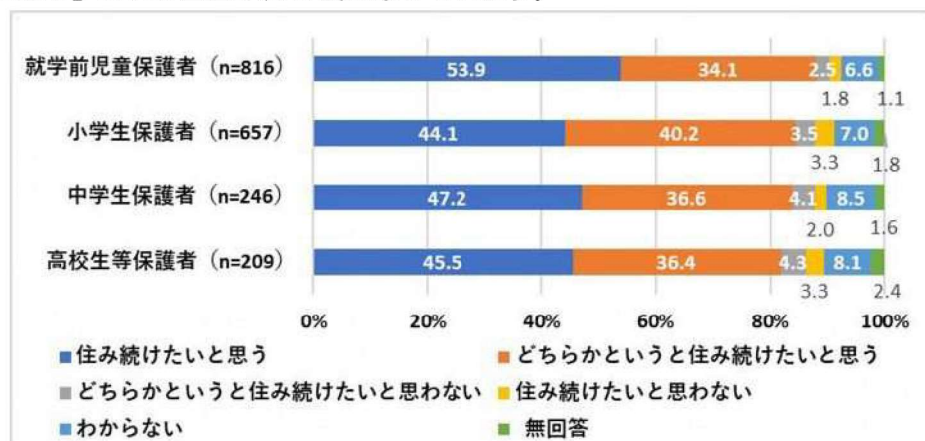
子育て施策や事業に何を望むか

いずれの年代の保護者も、「子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備」、「安心して遊べる屋外遊び場の整備」、「休日・夜間診療などの小児医療体制の充実」の順に多くなっています。

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
就学前児童保護者	休日・夜間診療などの小児医療体制の充実	子どもが安心して遊べる公園等の屋外遊び場の整備	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備	子育てに関する手当の充実や子育てにかかる経済的負担の軽減	幼稚園・小中学校における教育内容や教育環境の充実	仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの充実	子育て期の生活環境・住環境の整備	母親や乳幼児の健康診査・予防接種等の母子健康事業の充実
	54.3%	52.6%	51.0%	47.1%	31.0%	30.5%	26.8%	25.2%
小学生保護者	子どもが安心して遊べる公園等の屋外遊び場の整備	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備	休日・夜間診療などの小児医療体制の充実	子育てに関する手当の充実や子育てにかかる経済的負担の軽減	幼稚園・小中学校における教育内容や教育環境の充実	小学生、中高生が安心して過ごせる、子ども同士の交流・活動の場の整備	母親や乳幼児の健康診査・予防接種等の母子健康事業の充実	仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの充実
	66.2%	61.9%	50.2%	42.5%	35.2%	28.9%	22.2%	18.6%
中学生保護者	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備	子どもが安心して遊べる屋外遊び場の整備	休日・夜間診療などの小児医療体制の充実	子育てにかかる経済的負担の軽減	小学生、中高生が安心して過ごせる、子ども同士の交流・活動の場の整備	母親や乳幼児の健康診査・予防接種等の母子健康事業の充実	障害のある子どもや、ひとり親家庭などへの特に配慮を必要とする家庭への支援の充実	幼稚園・小中学校における教育内容や教育環境の充実
	57.7%	46.7%	45.9%	45.9%	24.4%	23.2%	23.2%	22.8%
高校生等保護者	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備	休日・夜間診療などの小児医療体制の充実	子育てに関する手当の充実や子育てにかかる経済的負担の軽減	子どもが安心して遊べる屋外遊び場の整備	母親や乳幼児の健康診査・予防接種等の母子健康事業の充実	障害のある子どもや、ひとり親家庭などへの特に配慮を必要とする家庭への支援の充実	仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの充実	幼稚園・小中学校における教育内容や教育環境の充実
	54.5%	46.4%	45.0%	38.8%	24.9%	18.2%	18.2%	16.7%

これからも豊島区に住みたいと思うか

全ての保護者で「これからも豊島区に住みたいと思う」もしくは、「どちらかというに住み続けたいと思う」という回答が約8割となっています。



④ 若者の意識・意向

就労状況

若者全体では、正社員で働いている人が最も多くなっています。一方で、契約社員、派遣社員、パート・アルバイト等で働いている人も1割程度います。

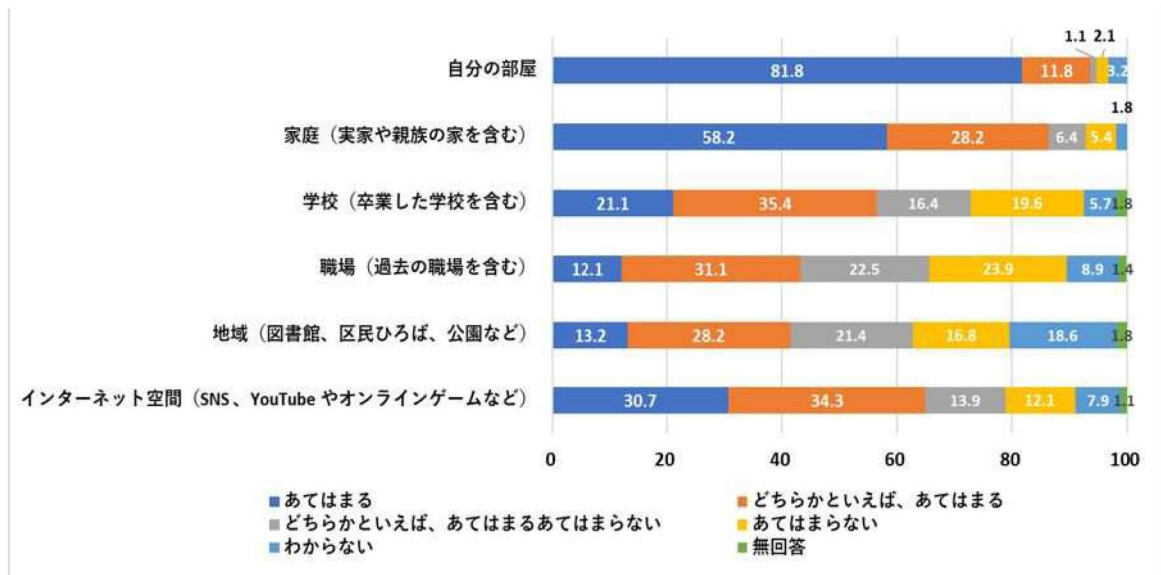
全体の3割程度が学生・生徒となっています。



若者の居場所

若者の半数以上が自分の部屋や家庭を自分の居場所と回答しています。その他、3割程度の若者がインターネット空間を居場所であるとして回答し、2割程度の学生が学校を居場所であると回答しています。

■ 次の場所は、今のあなたにとって居場所となっていますか。



第2章 子ども・若者と家庭を取り巻く状況

若者の約2割が「自分には話せる人がいない」、「自分はまわりから取り残されている」と感じています。また、2割弱の若者が「自分はひとりぼっち」だと感じています。

■あなたは、自分には話せる人がいないと思いますか



■あなたは、自分はまわりから取り残されていると思いますか

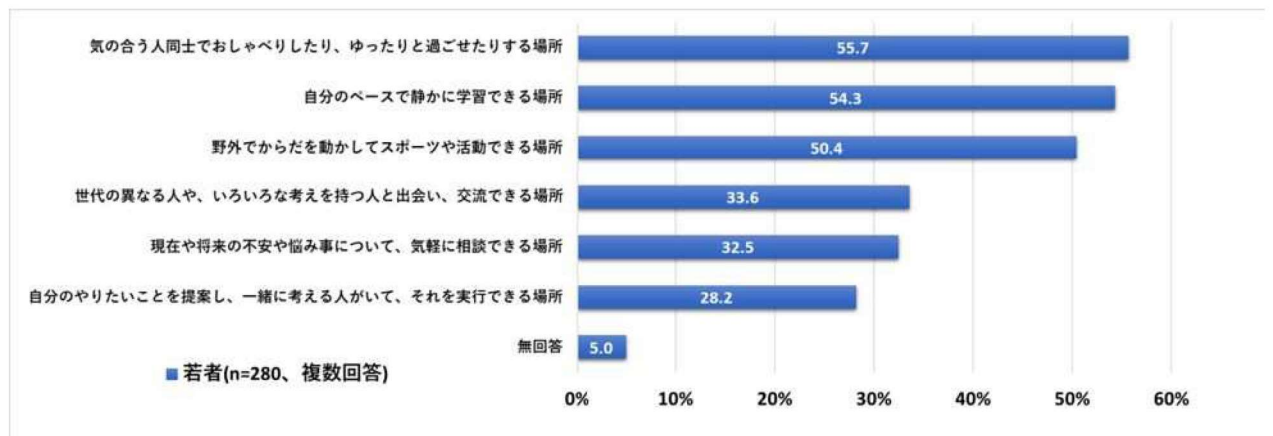


■あなたは、自分はひとりぼっちだと思いますか



地域の中にどのような場所があるとよいと思うかを聞いたところ、約半数の若者が「気の合う人同士でおしゃべりしたり、ゆったりと過ごせたりする場所」、「自分のペースで静かに学習できる場所」、「野外でからだを動かしてスポーツ活動ができる場所」と回答しました。いずれの選択肢に対しても約3割以上の若者がとよいと回答しました。

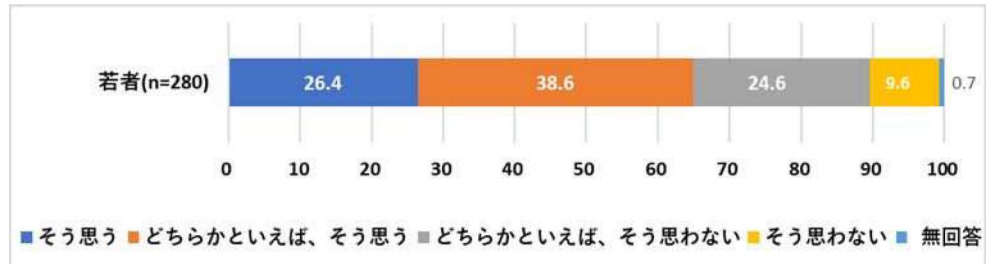
■あなたは、地域の中にどのような場所があるとよいと思いますか



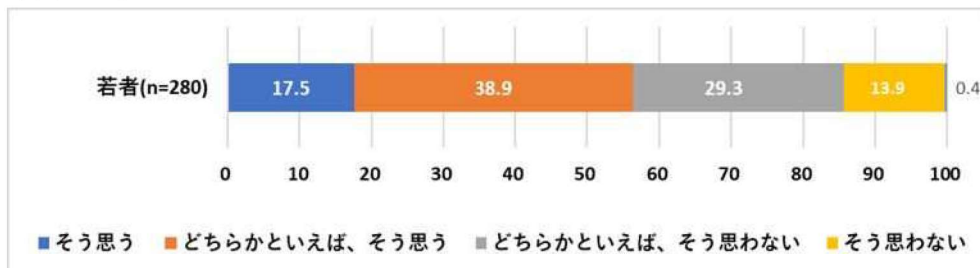
若者の自己肯定感・自己有用感

自分を好きかという質問では、回答した 65%の若者が「好き」もしくは「どちらかといえば好き」として回答しました。「自分の将来は明るいと思う」と回答する若者は約 6 割である一方、約 4 割の若者が、「自分が役に立たないと感じている」と回答しています。

○自分を好きだと思っているか



○自分の将来は明るいと思っているか



○自分が役に立たないと強く感じているか

